

漢方薬と癌治療

私のガン・難病外来には、多くの患者さんが相談のために来院されます。その中で、最も多いのは、ガンの標準治療を終了した時点で、ガンに多発性の転移があるとか、やや高齢である方たちには、「もうすべき治療法はありません。ホスピスを紹介します。」と主治医から告げられるということです。まだ元気で、生きたいという意欲や病気と立ち向かう意志があるのに、治療の場からの退去を求められるのは非常に残念なことだと思います。

患者サイドからみれば、見捨てられる様な印象を持ってしまうとのことです。また、現在の標準治療を終了した患者や標準治療の適応外の患者（転移などにより）の治療に対する主治医の熱意、関心はたいへん低いのではないかと感じるということです。

この様な中で、生きる気力までも低下させてしまうことが残念でなりません。標準治療が終了して、ホスピスへ行くまでの間に、もっとできることがたくさんあるのではないかと、思うのです。医師として最も大切なことは、患者さんの病状がどのようなであっても、患者さんに希望を持っていただいて、一緒にガンと戦う姿勢をお示しすることであると思います。私は「漢方」という治療手段を、治療の戦略の中心にすえて、実際の治療を行い、漢方以外の様々な治療手段も患者さんに紹介しています。私の治療経験の中で、奇跡的な著効例を何人か経験しました。本書ではそのような、実際の著効した症例を紹介して、ガ

ンと戦う戦略についてのささやかな経験を述べたいと思います。本書の前半部分は、漢方を中心に述べ、後半部分は、漢方以外の治療手段について、私が診察室でお話しているつもりで述べています。本書が、ガンと戦う患者さんやご家族の方のお役に立てば幸いです。